国立大学法人千葉大学学長の業績評価結果について

学　　長：　中　山　俊　憲
任　　期：　令和３年４月１日～令和７年３月３１日

評価期間：　令和３年４月１日～令和５年３月３１日

【評価結果】

国立大学法人千葉大学学長選考・監察会議は、国立大学法人千葉大学学長の業績評価に関する要項に基づき、令和３年度及び令和４年度における中山俊憲学長の業績評価を実施しました。

令和５年５月１６日開催の学長選考・監察会議において、学長の業績評価の実施手順等について確認するとともに、業績調書に記載された基本方針、大学運営、教育、研究、社会連携・社会貢献、国際化、附属病院、附属学校及びその他の各項目に係る業績について、６月２日まで書面による審査を実施しました。

令和５年６月１５日開催の学長選考・監察会議において、中山俊憲学長へのヒアリング及び監事との意見交換を行い慎重に審査した結果、非常に優れていると評価する結論に至りました。

令和５年６月１５日

国立大学法人千葉大学
学長選考・監察会議

様式２

業績調書に係る審査結果（集計）

評価項目	評価
1　基本方針	4.4
2　大学運営に関する事項	4.4
3　教育に関する事項	4.6
4　研究に関する事項	4.6
5　社会連携・社会貢献に関する事項	4.3
6　国際化に関する事項	4.1
7　附属病院に関する事項	4.5
8　附属学校に関する事項	3.6
9　その他	4.2

※評価は、各委員による評価の平均値を示す。

【評価及び評価内容】

評価	評価内容
5	期待を大幅に上回る業績をあげている／非常に優れている
4	期待を上回る業績をあげている／優れている
3	期待する程度の業績である／良好である
2	期待する業績を下回っている／やや努力を要する
1	期待する業績を大幅に下回っている／努力を要する

【特筆すべき事項】P2～P6

【委員Ａ】

○　前徳久学長の路線を継承しながら、ご自分の大学行政についての確乎たる信念のもと、多くの教職員の協力を得て、千葉大学のプレゼンスを着実に向上させていることは、高く評価できる。

○　附属学校に関する事項についても、一学期に一度くらい、担当副学長の言葉でもって、報告があってほしい。

○　「その他」は、入学者選抜者数を評価したものである。

【委員Ｂ】

○　2．ガバナンス

中山学長の千葉大学にかける意気込みが情報・データサイエンス学部の創設などの組織改革に明確にうかがえる。しかし、まだ課題は多く、大学教員と職員が能率的に働ける環境整備に力を入れてほしい。特に、教員がより教育と研究に集中できるよう、雑用を減らす対策を進めてほしい。URAのポジションを確保できないだろうか。

法科大学院については、今後の方針がまだ明確にされていない。

○　3．教育

入学試験応募者８年連続１位は、千葉大学の誇るべきデータである。大学の進路の決定には、学生本人だけでなく、高校の教員、両親からの推薦が大きく影響するであろうことを考えると、千葉大学が教育に関わる広い層から高く評価されていることの一つの証であると言える。

○　4．研究

2022 年度で特記すべきは、ワクチン研究開発拠点に採択されたことである。ワクチンの中でも、粘膜免疫ワクチンの開発は、世界的にも注目されており、是非有効なワクチンを世に送り出してほしい。それに伴い、研究拠点、薬学に感染症学のコースが新設されたのも高く評価できる。

研究に関しては、上記にとどまらず、若手研究者育成、新しい研究にチャレンジする姿勢が見られるのも喜ばしい。研究論文、研究費の伸びも素晴らしい。

○　6．国際化

ENGINE はコロナ禍により、難しい対応が迫られるなか、努力を重ねてきた。さまざまな制限がなくなった 2023 年度からは、本格的に再開してほしい。

○　7．病院

横手病院長の強力なリーダーシップの下、COVID に対して模範的とも言える診療体制を築き、コロナ禍に対応した。COVID 重症化メカニズムの研究も高く評価されるべきである。また、ワクチン接種を一般に開放した点も、市民からの千葉大学に対する信頼を得たことであろう。

【委員Ｄ】
○　基本方針に関しては、４つの方針各々で、具体策を着々と実行に移していることは、大いに評価できる。
○　「経営人材育成方針」を策定したことは、画期的なことと思う。具体策の設定・実行が今後の課題である。
○　情報・データサイエンス学部及び学府の設置方針は、時宜を得た戦略である。
○　令和５年度入学者選抜試験（学部）志願者数が国立大学８年連続１位は高く評価できる。
○　ワクチン開発の為の世界トップレベルの開発拠点の形成事業に採択されたことは、特筆すべきである。
○　スタートアップ創出支援の体制が大幅に強化されたことは、大いに評価できる。

【委員Ｅ】
○　中山学長は、「世界に冠たる千葉大学」を目指し、基本方針を明確にし、ガバナンス機能を強化し、教育・研究・社会貢献・国際交流の各方面にわたり、リーダーシップを発揮されておられると思います。
○　大学においては、学長が、学生・教職員に直接語りかけること、併せて様々なメディアを通じて学内外に学長としての思いを発することが極めて大切だと思います。世界に門戸開放して、学生や教職員が千葉大学に学び働くことに誇りと喜びを感じることができるよう学長の活躍を期待します。

【委員Ｇ】
○　基本方針については、大学のニーズに基づいて非常によくできている。
○　大学運営についても、学長のガバナンスの下、大学のビジョンの策定、理事の強化、経営戦略基幹の設置、アドバイザリーボードの開催などもよく行われている。
○　教育に関しては、国際未来教育基幹の再編を行い、大学の次世代（女性を含む）育成計画を策定したことは高く評価される。入学者選抜試験志願者数国立大学トップは評価に値する。
○　研究に関しては国際的競争力を身に付けており、研究費の取得も著しい。学部間によってかなり差があるのは、今後の課題と思われる。
○　社会連携・社会貢献に関しては、新型コロナウイルスに対してそれなりの成果を挙げているが、これは附属病院の努力によるところが大きい。
○　附属病院に関しては、大学の経営を担うトップ機関であり、その経営的成果は十分であると思われる。さらに、現在及び明日の医療・介護を担う人材を育成しなくてはならない。病院の安全面での努力により、「見落とし事故」などが激減しつつあることは望ましい。臨床中核病院として特定

臨床研究の論文数が増えつつあるが、さらに成果が期待される。また、附属病院は医師の働き方改革の中心となって機能する必要がある。

【委員Ｈ】

○　（教育）令和３年度に採択された JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」を着実に推進している効果として、博士後期課程の経済的支援が拡充し、高度な人材育成を行う環境が整備されてきている。

○　（研究）国際高等研究基幹が本格的に始動し、研究力向上の基盤が整備されている。

○　（その他）東京大学との土地交換により、西千葉キャンパスの整備が進むものと期待される。

【委員Ｉ】

○　国際高等研究基幹の設置をし、研究支援プログラム制度の新設や科研費採択挑戦サポート等の支援を行うことは評価できる。

○　国立大学改革・研究基盤強化推進補助金に採択され、DX の推進を行う点は高く評価できる。

○　宇宙園芸研究センターの設置は高く評価できる。

○　ワクチン開発の世界トップレベル研究開発拠点形成事業に採択されたことは高く評価できる。

○　新型コロナウイルスワクチン職域接種を本学の教職員・学生だけでなく、近隣大学の学生・教職員等も対象にして行った点は高く評価できる。

○　本学医学部附属病院に勤務する若手医師や国内外で活躍中の本学医学部出身の医師らが中心となり「こびナビ」を運営し、新型コロナウイルスワクチン接種の啓蒙活動をしていることは評価できる。

○　コロナワクチンセンターの研究成果や重症者、妊産婦並びに新生児の受け入れ、職域接種への派遣は、高く評価できる。

【委員Ｊ】

○　研究に関する事項として、国際高等研究基幹を設置し、若手・中堅研究者の育成に向けて精力的に取り組まれていることは、素晴らしいことです。

○　教育に関する事項として、JSPS 大学の世界展開力強化事業に連続して採択され、採択課題がいずれも活発に事業を推進していることも特筆すべきことだと思います。

【委員Ｋ】

○　デジタル・トランスフォーメーション（DX）　を踏まえた大学改革を実現している。

　令和４年度文部科学省「国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業)」に採択され、情報・データサイエンス学部及び学府設置が承認されている。

○　西千葉キャンパス・柏の葉キャンパスにおける将来構想により千葉大学の発展が期待される。

　西千葉キャンパスでは、東京大学との土地交換と西千葉キャンパス地区計画の作成が行われ、西千葉キャンパスの今後の発展が期待される。

　柏の葉キャンパスでは、Rugby School Japan 開校に向けた「事業協定書」を締結され、千葉大学 Biohealth Open Innovation Hub 構想に基づく「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」を核とした宇宙園芸研究センターの設置など、今後の発展が期待される。

○　ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業に採択され、日本の最先端のライフサイエンスへの貢献が期待される。

【委員Ｌ】

○　大学の基本方針については、世界レベルの研究大学を目指すという明確な目標を立て、必要な事業を計画的に進めておられる。

○　大学運営では、その基本方針を実現するべく、積極的な大学組織の機能強化が図られている点が高く評価される。時代に即した教育・研究組織の改革も進んでいる。

○　教育に関しては、新たな教育プロジェクトに採択されたり、教育機構の再編を行ったりするなど、目に見える成果と改革案を築いている。

○　研究推進体制としては、研究活性化の戦略基盤となる IMO が稼働しており、多面的な研究支援が進んでいる。特に若手研究者に対する経済的な支援が格段に充実した点は評価される。

○　社会面では、医学部、附属病院が中心となった COVID-19 に対する対策を牽引した貢献は大きい。

○　国際化についてはコロナ禍の中で大きく活動を制限された中での活動であり、厳しい環境下で精一杯の活動を展開したと判断した。一方では、オンライン留学などにより、海外渡航することなく留学の効果を引き出す新たな学修スタイルを積極的に構築した点は高く評価される。

○　これらの成果を総合的に判断すると、中山学長が各課題に対し千葉大学を大きく前進させた功績は高く評価される。

【委員M】

○　国立大学経営改革促進事業への採択、情報・データサイエンス学部及び学府設置の承認、情報戦略機構の設置は、DX が牽引する大学改革、デジタル人材育成に大きく貢献することが期待される。

○　国際高等研究基幹の設置と研究支援基盤の充実は、研究拠点形成に加えて科研費採択状況の改善を含む千葉大学の研究力強化に寄与することが期待される。

○　塩野義製薬との共同研究部門「ヒト粘膜ワクチン学共同研究部門」の設置により、粘膜に防御免疫を効果的に誘導する経鼻ワクチンの開発が期待される。

○　JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の採択による「全方位イノベーション創発博士人材養成プロジェクト」の推進は、博士課程学生の教育研究環境改善に重要な取り組みである。

○　職域接種やワクチンセンターを含む新型コロナウイルス感染症への対応と研究成果の発表、医師主導治験の開始は、新型コロナウイルス感染症に対する千葉大学の特色ある取り組みとして評価できる。

【委員N】

○　中山学長のリーダーシップのもと、研究および大学運営面を中心に、様々な成果が見られ始めており、今後の発展が期待される。

○　情報・データサイエンス学部や宇宙園芸研究センターの設置は、時代のニーズに合った魅力的な取り組みである。

○　入学者選抜試験志願者国立大学１位を８年連続で続けていることは驚異的と考える。

○　JST 次世代研究者挑戦的研究プログラムや大学の世界展開力強化事業、ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業等の採択は、大きく評価できる。

○　業績調書からは読み取れなかったが、法科大学院における司法試験合格者数の増加も、評価すべき変化と考える。

【その他のコメント】P7～P8

【委員Ｃ】

○　コロナ禍も含め、厳しい環境変化の中で、未来志向型総合大学として、いろいろと新機軸を打ち出し、積極的に取り組み、業績をしっかりとあげていると評価する。

【委員Ｄ】

○　国際化に関して、バンコク・キャンパスにおける取り組み再開、台湾との包括連携協定など、コロナで中断していた国際化が再開されたことは適切な戦略である。

○　「コロナ重症化の予測につながる研究」他、コロナ関連の研究への注力、病院関係者を中心とするコロナ患者の治療への積極的対応は、社会貢献として評価は高い。

【委員Ｅ】

○　コロナ禍におけるワクチンの職域接種の実施、附属病院の医療活動は目覚しいものがありました。

○　アカデミック・リンク・センターの教育・学修支援専門職養成プログラムの実践や図書館サービスはもっと評価されていいと思います。

○　教育学部、附属学校の活用を全学的に図っていただきたい。

【委員Ｆ】

○　業績調書を拝見したり、日頃の経営協議会での説明をお聞きしていると、様々な改革が着実に進んでいることは理解できるし、また、評価もできる。一方で千葉大学の現状が、「スーパーグローバル大学」として、十分かどうかについては、基準が必ずしも明確でなく、判断が難しいと思う。

【委員Ｉ】

○　学長との意見交換は、学長室における部局長と1－2名の部局執行部との面談であるが、幅広く学長のビジョンを行き渡らせ、部局の意見を拾うには、もう少し多人数での面談（前学長時代に行っていたような）が望ましいと思われる。

○　コロナ禍明けのENGINEについて、実際の留学に向けて十分な体制を取ってほしい。

【委員Ｊ】

○　教員の３年不補充ルールが守られておらず、何年不補充になるか各部局において見当がつかない状況に陥っており、教育・研究力、更に教員のモチベーションの低下を招いていると思われる。

○　千葉大学として重要視される研究は、文理融合によるものとはなっていない。総合大学千葉大学の強みが生かされていないように感じる。
○　キャンパスマスタープラン 2022 とインフラ長寿化計画の整合性がなく、学生、教職員が夢を描けない状況に陥っていると思われる。医学部の旧館についても今後の方針が示されておらず、千葉大学の未来を感じることが難しい。また、全学的に建物や空調等に重大な不具合が出ているにも関わらず改修されず、修理のための部品も調達しにくい状況にある。一方で、災害治療学研究所は急ぎ新築されており、千葉大学全体を俯瞰して合理的な判断がなされているのか疑問を感じる教職員が多い。

【委員Ｋ】
○　明らかにコロナ禍の影響によって達成できなかったと思われる事項も達成できなかったこととして 4 と評価したが、全体として中山学長のリーダーシップの下、コロナ禍の制限のあるなかで、期待された以上の業績が残されたと思う。

【委員Ｍ】
○　学長の業績調書のうち、どの事項が学長主導で行われてきたものなのかを示していただきたい。
○　教員人事の課題は、数値目標としやすい若手教員採用比率だけではないはずである。部局が納得出来、有能な人材登用に繋がる、教員人事に関する課題解決を望む。

【委員Ｎ】
○　国立大学附属学校の運営は、全国的にも様々な課題を抱えていると理解するが、その存在意義を踏まえ、日本の社会と将来に貢献するいわばモデル校となることを期待したい。